

令和7年度

明るい家庭づくり

優秀作品集



この冊子は明るい家庭づくりをテーマとした作文・
壁新聞・フォト & メッセージの優秀作品集です。

豊橋市
豊橋市教育委員会
豊橋市小中学校 PTA 連絡協議会
豊橋南ロータリークラブ

はじめに

家庭は、子どもたちが明るく健やかに生きていくための基礎となる最も大切な場所です。

豊橋市では、家族みんなが顔をそろえ、ふれあいを深めるために、毎月第3日曜日を「家庭の日」とし、よりよい家庭づくりを呼びかけています。また、この「家庭の日」を広く市民の皆さんに知つていただくため、2月を「家庭の日市民運動」強化月間として、「親と子の対話が作るよい家庭」をスローガンに、家庭の日市民運動を開しています。

「明るい家庭づくり作文・壁新聞」の募集は、小中学生とその家族の皆さんに、作品づくりを通して家庭の大切さに気づき、明るい家庭についてさらなる理解と関心を深めてもらうことを目的に、昭和58年度から実施しています。

今年度は、市内小中学校から作文276点、壁新聞107点(壁新聞募集は小学生のみ)の応募がありました。また、今年度は豊橋南ロータリークラブの60周年特別事業として「フォト&メッセージコンテスト」を実施しました。

それぞれの作品には、家族とのふれあいを通して感じたこと、家庭に起きたできごとから家族の絆について見直したこと、明るい家庭づくりをするために、自分が実行していることなど、それぞれの家庭の様子が生き生きと描かれています。

ここでは、応募作品のうち、作文・壁新聞・フォト&メッセージコンテストの入選作品の一部を紹介します。これらの作品を通して、みなさんが「明るい家庭づくり」について、考えるきっかけとなれば幸いです。

令和8年2月

作文の部

■ 豊橋市長賞	
「私の幸せな朝」	牟呂中学校一年 山田 彩友美……1
「使う前よりも・・・」	牛川小学校五年 朝倉 壮一朗……2
「家族4人で作ったパン」	羽根井小学校三年 山田 華穂……3
「わたしはおねえちゃん」	牟呂小学校一年 鈴木 つぐみ……4
「わたしのひいばあちゃん」	牟呂小学校一年 寺中芽生……5
「私の弟でいてくれてありがとう!」	南陽中学校一年 柴田 笑心夏……6
「家族の明るいたまごやき」	多米小学校五年 東田小学校三年 小原奏一郎……7
「えほんタイム」	向山小学校一年 磐部一奈乃……8
「ありがとう」が増える家庭	東陵中学校一年 西村りおな……9
「ぶどう会議」	玉川小学校五年 鎌田結衣……10
「びょう気にまけない家族のきずな」	花田小学校三年 北河世良士……11
「なつやすみのかフェやさんごっこ」	天伯小学校一年 鶴田結希……12
「豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞」	岩田虎太朗……13
「僕にとつての明るい家庭」	大原悠雅……14
「けいやくからのハッピータイム」	柴田類一生……15
「新しい家族を通して」	多米小学校三年 有馬結月……16
「わたしのひいばあちゃん」	大清水小学校一年 有馬結月……16

■ 豊橋南口一タリークラブ会長賞

「私の大切な家族」	青陵中学校一年 矢野愛莉……17
「幸せの言葉」	栄小学校五年 岩田優花……18
「あいさつから始まる明るい家ついづくり」	玉川小学校三年 高橋唯斗……19
「ぼくのたまごりょうり」	汐田小学校一年 鈴木葵士……20
「へいわ」	東田小学校四年 花田彩夏……30

壁新聞の部

■ 豊橋市長賞	
「D.I.Y.」	東田小学校五年 土井茉子……21
「やつてみよう」	豊小学校二年 斗野綾人……22
「りんりん」	幸小学校四年 鈴木奈湖……23
「ひまわり」	汐田小学校三年 高坂琴葉……24
「ダブルショート！」	豊小学校四年 梅木拓斗……25
「ゆうし」	吉田方小学校三年 梅木勇志……26
「太陽」	東陵中学校一年 朝倉いづみ……34

■ 豊橋市議会議長賞

「みずでつぼうたいかい」	松山小学校二年 中川誠都……33
「夏のくつとばし」	松山小学校五年 中川実桜里……33
「さいげん旅行」	多米小学校四年 鈴木蒼依……33
「豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞」	多米小学校四年 鈴木蒼依……33
「さいごの旅行」	旭小学校一年 矢野陽梨……34
「豊橋南口一タリークラブ会長賞	大橋湊斗……34
「夢追う後ろ姿」	大橋湊斗……34
「太陽」	東陵中学校一年 朝倉いづみ……34

■ 豊橋南口一タリークラブ特別賞

「太陽」	東陵中学校一年 朝倉いづみ……34
------	-------------------

■ 豊橋南口一タリークラブ会長賞

「スマイル」	東田小学校六年 褚田夏妃……29
「へいわ」	花田小学校三年 田村優成……30
「幸せの言葉」	栄小学校五年 岩田優花……18
「あいさつから始まる明るい家ついづくり」	玉川小学校三年 高橋唯斗……19
「ぼくのたまごりょうり」	汐田小学校一年 鈴木葵士……20

作文の部

◎ 豊橋市長賞

私の幸せな朝

牟呂中学校一年 山田 彩友美

「ばあば、おはよう。学校行つてきます。」「いってらしゃい」

朝起きてすぐにするこのメールのやりとりは、祖父が亡くなつてから始まり、もう四年が経ちました。相変わらず祖母の文章はおかしなところがいっぱいあります。返事を忘れる事ではなく、返つてくるスピードは速くなりました。

コロナ禍で母方の祖父が亡くなつた時、ずっと会うことができず、やつと会えたのは亡くなつて葬儀場に運ばれた時でした。その時にこんな後悔はもうしたくないと心に決めました。私にもできることはないかといふ事を考えながら生活をするようになりました。その一つが、遠くに一人でいる祖母との毎日のやりとりです。祖父が亡くなり元気がなく携帯の操作が苦手だった祖母でしたが、毎日のやりとりの中では出来るよくなつてきて、今では友達とのやりとりもするようになり元気になつてきました。

最初、祖父の変化に気づいてはいたものの、なかなか認めることができず、どこかで前のしつかりものの祖父と比べてしまつて、以前の姿に戻つて欲しいという思いが強すぎて、どうやつて祖父と関わつていこうかを悩んでいた時期もありました。私のことを忘れているかもしれないと分かつた時はショックで言葉が出てきませんでした。日々少しずつ悪化しているようにも感じましたが、悩んでも仕方ないと思い、積極的に祖父と関わることにしました。何回も同じことを聞かれれば、同じことを何度も話すようになりました。

ある日の夜、水道があまり出なくておかしいなと思つていたら外の水道が出つぱなしになつっていました。祖父が煙を見に行つた時に出つぱなしにしていました。最初はなんでこんなことをするのだろうと思つていました。すると父が、

「昔は井戸水を使つていたからたまに出しつぱなしにして様子を見ることがあつたんだよ。」と教えてくれました。祖父のしていることには何か意味があるのだなとその時感じました。それからは祖父の不思議な行動も

すぐに注意するのではなく、自分なりに考えてから声をかけるようになりました。いつも祖父が注意してきたり怒つたりするのは私が小さい頃のことを思い出しているのだと思いました。祖父の中では私は小さい頃の今まで止まつてゐるのです。今までずっと近くで私や兄のことを見守つてきてくれていたのです。今度は私たちが見守つていきたい。以前のど

祖父は

「おはよう。だれかね?」

と聞いてきます。私の事がわからなくなつてしましました。

「じいちゃん、あゆみだよ。学校に行つてくるよ。」

「そおかあ」

そして、私たちはうちの隣の母屋に住んでいます。毎日母屋に行き朝の挨拶をするところから始まります。毎朝、「忘れ物はないかん」「ないよ」のやりとりがあります。母も同じ事を聞いてくるので同じことが二回あります、これが私のルーティーンです。

うしようという気持ちはなくなりました。

最後に、私は身近な人の死から後悔のない毎日を送りたいと日々思つてきました。核家族が増える中、毎日祖父母に関わることができるとうのはとても幸せなことだと思っています。家族の一員として私にできること、そして、それは家族だけでなく、学校でも部活でもクラブチームでも同じで今自分にできることは何かを考え、毎日を大切に生きていきたいと思っています。

今日も元気に

「おはようございます。行つてきます。」

これからもずっとずっと続けていきたい何気ない素敵な一日のはじまりです。

○豊橋市長賞

使う前よりも…

牛川小学校五年 朝倉 壮一朗

ぼくは片付けが苦手です。ついに使った物は出しつぱなし、服は脱ぎつぱなし、自分の部屋は床に物が散らばって床が見えません。

そんな生活を続けていたある日、とうとう父から特大の雷が落ちました。「次に使う相手が気持ちよく使えるように使う前よりもさらにきれいにすることを心がけなさい。」と、たっぷりしかられました。

心のまん中に矢がささった様にずうんと落ち込みましたが、落ちついで考えてみると父の言葉はもつともだと思いました。その次の日から父

に言われた通り、気をつけてみました。

初めは、勉強の後、机に残った消しカスのそうちや出した本を片付けるなど、気合いを入れてやつていたけれど、だんだんと面倒くさくなつてしまい、父から言われた言葉も忘れてまた以前のように、使いっぱなし、脱ぎっぱなし、出しつぱなしの生活に戻つてしましました。たまに思い出し、また心がけてみるも、初めは気合いが入りエンジン全開になるけれどすぐにガソリンが尽きて、三日坊主で終わってしまう…。そんな日々をくり返していると、また父からの雷です。

「前にも言つたじゃないか！もう少し続けられるように、自分の意志を強く持つて取り組みなさい！」とまたもや鬼のようにしかられてしまいました。自分でも（ああすればよかつた、こうすればよかつたな）と後悔しつつ自分の部屋をながめて見ると、床にレゴが散らばり、母がたたんでくれて、しまいなさいよと渡されたぼくの洗たく物はタンスの中でぐちやぐちや。机の上はいらないプリントや文房具でごちやごちや。自分の部屋が汚いので、ついにリビングで宿題をやりがちなのですが、やりつぱなしで、食卓は消しカスまみれ…。なんとも情けない光景です。確かに気持ちの良いものではありません。母からの声も飛んできます。

「そろそろ夕飯だから食卓を片付けてちようだい、何この消しカスは！」

そんな中、ひとつ気付いたことがあります。自分の部屋で勉強をしようとしても机の上が散らかっているので、机を片付けるところから始めないといけません。そのため、片付けているうちに「勉強をするぞ！」という思いが冷め、結局やろうと思っていた勉強ができずにいるということです。

ぼくは思いました。（このままだと、自分で散らかした物を片付けるだ

けで勉強までたどりつけない日々になってしまった！そんなのいやだ！）

改めて、父に言われたことを考えてみることにしました。まず、リビングや食卓など家族の共用スペースに出しつばなしのおもちゃや本を片付けてみました。夕食の時間が近かったので台ふきで机もふきました。するとスッキリとさわやかな気分になりました。父はこうも言つてました。「次に使う人のためを思つて場を整える。そうすると、次に使う人が気持ち良く使える。これも思いやりの気持ちの一つ。その積み重ねが明るい家庭を築くことなんじやないかな。」ぼくはこの家族が好きなので、皆が気持ち良く使って、家の中に笑顔が沢山ある方がいいなと思いました。

こうして作文にしましたが、まだまだぼくは完ペキに出来るわけではありません。

たまに父や母からのお小言も飛んできます。でも、次に使う人を思つて場を整えるという父の言葉のおかげで、前とは違肩の力を抜いて、少しずつでもぼくが出来ることを積み重ねていこうという気持ちになっています。そんな日々の中で気付きもありました。自分が使った食器は自分で洗うようになりましたが、やる前は、そんなの面倒だと思つていたけれど、いざやってみると意外と大変じゃないし、家族も喜ぶし自分もさわやかな気分になります。トイレも汚してしまつたらサッとふいて使うようになりました。家の中だけでなく、外でもこの気持ちを大切にしていきたいです。

羽根井小学校三年 山田 華穂

○豊橋市長賞

家族4人で作ったパン

ました。

次は、生地を分けて好きな具をのせます。わたしは、チョコレートパン、弟はコーンパン、パパとママはソーセージパンにしました。チョコレートのあまいにおい、コーンのつぶつぶ、ソーセージのジューシーさ、それぞれのパンができあがるのが、楽しみでたまりませんでした。

オープンでやき始めると、家じゅうにいいにおいが広がります。やき

この夏休み、わたしたち家族4人は、はじめていつしょにパンを作りました。いつもはママがりよう理をしていて、わたしや弟は食べるだけ。パパも仕事で帰りがおないので、4人そろつて台所に立つことは、ほとんどありません。でも、この日はお休みがそろつて、「みんなでパンを作つてみよう」ということになりました。

まずは、小麦こ、さとう、しお、ドライイースト、水、オリーブオイルなどのざいりょうをボウルに入れます。わたしはこなをはかる係、パパは水を入れる係、ママはじゅんぱんにざいりょうをまぜます。弟は、「なぜたい」と元気いっぱいでした。ママが「じゃあ、やさしくね」と言うと、弟はうれしそうに木べらを動かしました。

次は、生地をこねる作業です。こなだつたものがまとまって、だんだんパンらしい生地になつていくのがふしきでした。パパは力が強く、「パパのこね方はすごいなあ。」と思いました。わたしもまねしたけれど、力がいるし、手にも生地がくつついて大へんでした。それでも、だんだんつるつるになつてきて「パンやさんみたい。」と家族でわくわくしました。生地をボウルに入れ、ふきんをかけてはつこうさせます。そのあいだにおやつを食べたり、おしゃべりをしました。「ちゃんとふくらむかな」と弟が何どものぞくのが、かわいかつたです。時間がたつと、生地はふわふくらみ、まるで風船のようでした。みんなで「おおー」と声をあげました。



上がったパンはこんがりきつね色でおいしそうでした。テーブルにならべて、「いただきます」と声をそろえました。外はカリツ、中はふわふわで作つたパンは今まで食べたどのパンよりもおいしく感じました。

今回のパン作りでいちばんすばらしいと思ったのは、家族4人でいっしょにやりとりする時間をつくれたことです。ふだんは、それぞれいそがしく、全員が同じことに取り組むことはなかなかありません。でも、この日はみんなでわらいながら作業をして、とてもあたたかい時間になりました。

そして発見したのは、パン作りがただのりようりではなく、家族ですごすとくべつな時間になるということです。自せんと会話が生まれ、みんながえがおになりました。わたしは、この日をずっとおぼえていたいです。

それは、やさしいおねえちゃんになることです。そのために「いつしょ

上がったパンはこんがりきつね色でおいしそうでした。テーブルにならべて、「いただきます」と声をそろえました。外はカリツ、中はふわふわで作つたパンは今まで食べたどのパンよりもおいしく感じました。

今回のパン作りでいちばんすばらしいと思ったのは、家族4人でいっしょにやりとりする時間をつくれたことです。ふだんは、それぞれいそがしく、全員が同じことに取り組むことはなかなかありません。でも、この日はみんなでわらいながら作業をして、とてもあたたかい時間になりました。

そして発見したのは、パン作りがただのりようりではなく、家族ですごすとくべつな時間になるということです。自せんと会話が生まれ、みんながえがおになりました。わたしは、この日をずっとおぼえていたいです。

○**豊橋市長賞**

わたしはおねえちゃん

牟呂小学校一年 鈴木 つぐみ

に」や「いいよ」ということばを、よくつかうことにしました。あるひ、おふろでどちらがさきにからだをあらうかで、けんかになつてしまいました。そこで、わたしは「いつしょに、あらいつこ」しよう。

といいました。すると、みつちゃんは「いいよ。」

といって、わたしのせなかをあらつてくれました。わたしも、みつちゃんのせなかをあらつてあげて、なかよくおふろにはいることができました。また、おふろをでたあとにも、どちらがさきにかみをかわかすかで、いいあいになりました。そこで、わたしは「さきにいいよ。」

といいました。すると、みつちゃんも「いいよ。」

といつて、ゆずつてくれました。そのあと、なんかいも「いいよ」とゆずりあつたので、ふたりでおもわずわらつてしましました。

わたしには、もうすぐあたらしいおとうとがうまれます。わたしは、さんになきょうだいの、いちばんうえのおねえちゃんになります。みつちゃんやあたらしくうまれるおとうと、これからもずっととなかよくしたいです。そのためには、「いつしょに」や「いいよ」ということばをたいせつにして、やさしいおねえちゃんになりたいです。

に」や「いいよ」ということばを、よくつかうことにしました。あるひ、おふろでどちらがさきにからだをあらうかで、けんかになつてしまいました。そこで、わたしは「いつしょに、あらいつこ」しよう。

といいました。すると、みつちゃんは「いいよ。」

といって、わたしのせなかをあらつてくれました。わたしも、みつちゃんのせなかをあらつてあげて、なかよくおふろにはいることができました。また、おふろをでたあとにも、どちらがさきにかみをかわかすかで、いいあいになりました。そこで、わたしは「さきにいいよ。」

といいました。すると、みつちゃんも「いいよ。」

といつて、ゆずつてくれました。そのあと、なんかいも「いいよ」とゆずりあつたので、ふたりでおもわずわらつてしましました。

わたしには、もうすぐあたらしいおとうとがうまれます。わたしは、さんになきょうだいの、いちばんうえのおねえちゃんになります。みつちゃんやあたらしくうまれるおとうと、これからもずっととなかよくしたいです。そのためには、「いつしょに」や「いいよ」ということばをたいせつにして、やさしいおねえちゃんになりたいです。

◎豊橋市議会議長賞

家族円満の秘けつ

南陽中学校一年 寺中 茂生

私の家族が仲がよいのには秘けつがあります。一つ目は、役割を決めることです。特に夏休みや冬休みはお母さんやお父さんは仕事と家事を両方するのは大変なので私は洗たくものをたたみ、妹は食器を洗うなどお手伝いをすることで親の負担がへり家族の時間を作ることができるでとてもきずなが深まります。

二つ目は、土日などで家に全員いるときのすこし方です。私たちは土日とかは、みんなでお昼ごはんを食べながら、今週のできごとを話したりして楽しみます。夕方になると妹の宿題を手伝つたりして一日をすごします。少し前までは十一時までねてたりと起きる時間がおそらくあまり家族とのコミュニケーションが取れてなかつたので今は少しでもはやく起きるように努力しています。

三つ目は、家族時間の作り方です。家族の時間を充実させるためにポジティブワードで話すことを大切にしています。ポジティブワードで話すコツは、「できないんだ。」とあい手をひいて「できたの。」とかい手をたたえるような言葉で話してポジティブ空間を作るようにしています。家族の時間を一日に十分だけでも作ることで、仲が深まり、よりよい家族のかたちができあがります。

六つ目は、いいことは、ほめあうです。いい所をほめることは一番大切なことだと思います。理由は、学校や仕事にいくとほめてもらうきかいも少なくなるので、家族内だけでもほめあうことにより仲のよい家ていを作ることができます。

もし上手くいかなくてもいいところに目を向けることで成こうのかのうせいもあがります。

この六つを守っている理由は、今、世界中で家族といられない子どもがたくさんいると聞いたからです。そんな人が、たくさんいるなかであわせな家ていがあるのにけんかしたり仲悪くしている場合ではなくない？って思ったので一、役割、二、土日での過ごし方、三、家族時間、四、

話にもどつて四つ目は、おたがいの気持ちを尊重することです。十年以上ずっと一しょにいるともちろん意見がくいちがうことがあります。意見がくいちがつたからけんかというのはいやなので相手の意見を理解することが大切でひいていやぼうげんをはくのではなく、だれが聞いても心地のよい言葉を使って話せるといいなと思いました。まだ私もひいてしまうことがあるので気をつけたいと思いました。

五つ目は、悪いところは、しつかり注意することです。家族というのはいい子いい子つてしてちゃいけないと思っています。理由は、しよう来甘やかしすぎると勉強はできなくてもいいという考えになってしまいしょう来ろくな大人にはなないのでお父さんやお母さんに悪いことをしたならしつかり悪いと教えてもらうことがりっぱな大人への道なのかなだと思います。そのために自分でも意識することが大切だと思っています。まず自分が中心だと思いこまないで周りを見たりして協力したりすればいいことがかえつてくるので自分自身努力することの大切さに気づくことは大切なと思っています。

話にもどつて四つ目は、おたがいの気持ちを尊重することです。十年以上ずっと一しょにいるともちろん意見がくいちがうことあります。意見がくいちがつたからけんかというのはいやなので相手の意見を理解することが大切でひいていやぼうげんをはくのではなく、だれが聞いても心地のよい言葉を使って話せるといいなと思いました。まだ私もひいてしまうことがあるので気をつけたいと思いました。

おたがいの気持ちの尊重、五、悪いところは注意する、六、いいところはほめあう、だけは、必ず守るようにしています。

これからもこの六つの家族でのきまりをちゃんときつちり守つていきたいです。

◎豊橋市議会議長賞

私の弟でいてくれてありがとう！

多米小学校五年 柴田 笑心夏

今年の夏休みは、何にしよう、どこへ行こうと家族で色んな計画を立て、話ををして、ようやく待ちに待った夏休み初日！私の二つ下の弟が右足首を骨折した。

弟と一緒に所ぞくしているバレーボールチームでの練習中の出来事だつた。最初は正直大げさだと思つた。年も近く、一緒にいる時間が長いからか、よくケンカをする。練習が中断され、かんとくや、コーチ、チムメイトが心配してかけよつたが、私だけは遠くから見ていた。いつもは転んだらすぐ泣く弱虫な弟が、泣かずに、いたそうな顔をしてコーチにだつこされ、歩けないすがたを見て、そこで初めて、いつもの弟となにかがちがう。大変なことだと思い、心の中で弟にちよつとだけあやまつた。

病院のしんさつの結果、右足首の外側と内側の二か所に骨折が見つかつた。それから、先生とかんごしさん達が、お母さん達にケガの説明をしたり、弟の足をきれいにしてギプスをまいたり、まつばつえの調節をしたりと、あわただしかつた。こうしてケガをした日から、つまり夏休み

の初日から、弟はギプス生活が始まつたのだ。

いつも、家にいて宿題をしても、一緒にやろうと言つてとなりに来るし、マネばかりして、私が家で遊ぶときは、いつも私の後をついてくる弟。習い事も一緒だから、弟といる時間が長すぎて、うつとうしいと思つていた。だけど、弟はギブス生活が始まり、今までのようには、私についてこなくなつた。弟がケガをして5日、家では1人で好きなことをして遊んで、習い事に行つた。いつも一緒に弟がない。

夏休みの作文を考えようと、一人で部屋にいたときのこと。今日もカタカタと、一階から、まつばつえをつきながら歩く音が聞こえる。そういえば、私も3年前、弟と同じ足首を骨折したなと思い出した。生活中で、はみがきする時も、顔を洗う時も、誰かに支えてもらつてないと出来なくて大変だったのを思い出したのと同時に、弟は、今、だいじょうぶなんだろうかと心配になつた。

次の日の朝、弟と一緒に起きた。おはようと声をかけ、はみがきと顔を洗うの一緒にいこうと声をかけた。それから毎日、どこへ行くのも、家で遊ぶのも、何をするにも私から声をかけた。夏休みの宿題をやるもの、遊ぶのも、はみがきする時も、お風呂に入る時も、いつも一緒だ。もちろん、お母さん達がサポートをしてくれながらだけど、私も私にできる全てのことは、誰かにお願いをされたわけではなく、私が弟と一緒にいたかつたからやつた。

私はそこで、自分が今まで、弟に対し、うつとうしいなと思つていたことをすごく反省した。それに弟が後をついてきてくれないさみしさも感じた。ケガをしてからのお伝いだつて、私が弟と一緒にいたくてしてるだけなのに、弟はいつも通りの笑顔で

「ありがとう。」

と言つてくれた。私は弟に

「ここなは、るいくんのお姉ちゃんなんだから甘えて良いんだからね。」と伝えた。

私にとつて、弟は、いつも当たり前に近くにいる存在なだけだつたけど弟がケガをしてから、毎日弟と一緒に歩いて学校へ登校できるありがたみや、弟と一緒にだから毎日楽しく宿題ができたり、弟と一緒にだから習い事も集中して通えるし、弟と一緒に遊びも楽しいことに気付いた。

きょうだいは、仲良しな時もあればケンカもある時もあって、いつも当たり前に近くにいるからこそ、大切さを見失つてしまふかもしれないけど、私は、弟がいて本当に良かったと思つた。そして、今年の夏休みも、これから毎日も大好きな弟とたくさん遊んで、たくさんケンカをしながら、私の弟でいてくれることにかんしゃを伝えたいと思う。

◎豊橋市議会議長賞

家族の明るいたまごやき

東田小学校三年 小原 奏一郎

お母さんが、いつもおべんとうのときにたまごやきを作ります。作っているところを見ているうちにかんたんにできそうだとおもつてたから「ぼくも作れるかな」と、お母さんに言いました。

「作つてお母さんのおべんとうの中に入れて」

と言わされました。たまごやきの作り方は、お母さんが作つてあるのを見

ていたから、自分でさいしょから作つてみました。さいしょは、たまごをフライパンにぜんぶ入れてしまつたので、中みがすかすかでした。あじもつけなくてかたちもうまくできませんでした。でも、お母さんは、よろこんで

「あしたのおべんとうにもつていくよ」

と言つてくれました。たべてみると、あまいあじがしませんでした。つぎは、もっとおいしいたまごやきを作りたいと思いました。たまごやきの中に何を入れているときいてみると、お母さんと子どもたちは、さとうをいれたあまい味でお父さんは、だしのきいた、たまごやきだとおしゃれもらいました。ぼくのおべんとうにいつも入つているのは、あまいたまごやきだつたからびっくりしました。

「たまごやきの味をかえてもいいの？」

とお母さんにきいたら、

「たまごやきの中には、何を入れてもいいよ。お母さんは、あまいやつがすきだよ」

とおしえてくれました。そこで、ぼくは、かんがえました。家族のすきなものを入れたら、みんながよろこんで、くれるとおもいました。お母さんとスーパーに行つてなにを入れようかぐざいをさがしました。お父さんは、おもしやさんに行くとぜつたに生しらすをうれしそうに食べます。だから、しらすとネギをえらびました。さつそく、だしとしらすとネギを入れた、たまごやきを作りました。しつぱいしないように、弱火でゆつくりやきました。ぐざいが入つていると、かたまりにくくなつたけど、なんとかできました。お父さんに食べてもらつたら

「おさけにあうなあ！」

とよろこんでくれました。つぎにおねえちゃんに、どんな味のたまごや

きがいいかきいたらお母さんとおなじで

「あまいたまごやきがいい」

と言つてくれました。おべんとうの日に、自分でかんがえて、さとう、だししょうゆ、かくし味にみりんを入れたたまごやきを作りました。味は、どうだつたかきくと、

「めっちゃおいしかった。みんなに弟が作つてくれたよ」

と言つてくれました。お母さんは

「あまくてお母さんごのみの味」

とかんそうを言つてくれました。ぼくは、うれしくてまたいろんな味を作ろうと、思いました。これからも、みんながすきなものをかんがえて、たまごやきの中に入れて食べたときに、家族がおいしいと言つてくれる明るいたまごやきをたくさん作りたいです。

「するい」

といつてすこしおこります。みつけられなくてくやしいきもちになります。でも、すぐわかつてすごいなつておもいます。つぎのもんだいはさつきよりがんばるぞとおもつてかんがえます。そしたら、つぎはおねえちゃんがこたえをいいます。わたしはくやしくてもつとやりたくなります。つぎはさいしょにみつけたいからです。おかあさんがすこしヒントをくれます。そうするとこたえがわかります。せいかいしたらもつとやりたくなります。つぎは、ヒントなしでひとりでみつけたいからです。おとうさんは、わたしよりみつけるのがおそいです。わからないないとおもしろいことをいつて、みんながわらいます。さいごはむずかしいもんだいをみんなでかんがえます。きょうりよくしてぜんぶわかつたら、みんなでよろこんでタツチをします。

○豊橋市議会議長賞

えほんタイム

向山小学校一年 磯部 一奈乃

よるのおふろのあとは、かぞくみんなでえほんをよむじかんです。わたしは、はやくおふろにはいります。いちばんにおふろからでたひとがさいしょによむえほんをきめるからです。ほんだけらいいつさつえらんで、みんなでよみます。

わたしがだいすきなほんは、もんだいにかいてあるものを変えのなかからさがすほんです。いつもさいしょにそれをえらびます。おかあさんはすぐにみつけます。わたしといもうとは、

おばあちゃんがきたら、おなじほんをいつしょによみます。わたしすぐみつけるから、

「はやくみつけてすごいね。」

つて、なんかいもほめてくれます。ほかにもわたしがほんをおんどくする

「そんなんにじょうずによめるんだね。」

つて、よろこんでくれます。いっぱいほめてもらえてすごくうれしいです。わたしは、えほんタイムがだいすきです。ちいさいときによんだほんもいっぱいおぼえています。おおきくなつても、ずっとかぞくでほんをよみたいですね。

◎豊橋市教育委員会賞

「ありがとう」が増える家庭

東陵中学校一年 西村 りおな

家の中の空気を、もっと明るく、気持ちのいいものにしたいと思うようになった。何か特別なことをするわけではなく、今の私にできる小さなことから始めてみようと考えた。そして、私が決めたのは、「いただきます」と「ごちそうさまでした」を毎日きちんと言う、ということだった。私は、「ありがとうございます」などの感謝の言葉を言うのが少し苦手だ。家族に向かって言うのが、なんだか照れくさく感じてしまうからだ。でも、あいさつなら自然にできるし、伝えたい気持ちもこめられると思った。

夕方になると、家族みんなでご飯を食べる時間があります。私はその時間をもつとあたたかく、明るくしたいと思い、毎日「いただきます」「ごちそうさまでした」をきちんと言うことにしました。

毎日、ご飯のことだけじゃなく、「おはよう」「こんにちは」などのあいさつを、大事にするようにしたら、家族の反応が少しずつ変わってきた。おばあちゃんが笑ってくれたり、「ちゃんとしててえらいね」と声をかけてくれるようになつた。そんな反応を見て、私もうれしくなり、もつとがんばりたいと思つた。

また、最近はごはんの準備や片付けも少しずつ手伝うようにしている。

お皿を運んだり、犬と遊ぶようにしたり、そういうことを通して家族との会話が増えた。前よりも「ありがとうございます」と言われることが増えて、なんだか自分が家族の一員として役立てているような気がした。

私は今まで、家庭の雰囲気は自然とできあがるものだと思っていた。でも、自分の行動や言葉で変えていくことができると分かった。明るい家庭には、あいさつや感謝、そして小さなお手伝いなど、ちょっととした行動の積み重ねが大切なのだと思う。

これからも、家族みんなが気持ちよく過ごせるように、自分にできることを考え、少しずつ行動していきたい。そして、笑顔があふれるような家庭を、自分の力でつくつていけたらいいなと思う。

そして、家庭の雰囲気をもっとよくするために、新しくやつてみたこともあります。それは、自分から話しかけることです。ご飯を食べている時などに

「今日、学校でこんなことがあったよ。」

と自分から話すようにしています。そうすると、おばあちゃんやおじいちゃんが笑ってくれたり、お父さんが話しにのつてくれたりして、会話がふえるようになりました。話すことが増えると、なんだか心の距離も近くなつたような感じがして、前よりも家の中があたたかく感じられるようになりました。

それから私は「ありがとうございます」や「ごちそうさま」だけではなく、「おいしかった」とか「今日もつくってくれてありがとうございます」など、自分の気持ちを言葉にすることも大事だと思うようになりました。小さいことだけど、言われた方もうれしそうで、やつてよかつたと思えます。

私は、明るい家庭というのは、いつも笑っているとか、にぎやかであることだけじゃないと思います。おたがいを思いやつたり、ちゃんと気持ちを伝えたりすることで、心があたたかくなるような家庭が、本当に明るい家庭だと思います。

これからも私は、できることを少しずつ続けて、家族との時間を大切

にしていきたいです。ご飯と一緒に食べる時間や会話のひとことひとことを大切にしながら、自分から明るい家庭づくりができるようにならなければなりません。そのためにも、これからもいろいろな話をしたり、手伝いをしたりして、自分から家族と関わっていきたいです。たとえば、夕ご飯の前にお皿を並べたり、食後にお皿を運んだりすることも、私にできる大切なことだと思います。

小さなことでも、「ありがとうございます」と言ってもらえると、うれしくなります。そうやって、家の中にやさしい気持ちがふえていけば、もっと明るい、ここちよい、家庭になると思います。

◎豊橋市教育委員会賞

ぶどう会議

玉川小学校五年 鎌田 結衣

私は夏になると楽しみにしていることがあります。おじいちゃんが作っているぶどうが毎日食べれることです。スーパーで買ってきましたぶどうよりもおいしくて私は大好きです。明日は食べれるかなあと朝学校に行く前にぶどうチェックをしています。その日もあともう少しで食べれるぞと日課のぶどうチェックに行くと、いつもと何か様子が違っています。地面にはぶどうの皮が散らかっています。

「おじいちゃん、大変大変。ぶどうが食べられてる。」「こりゃあハクビシンの仕業だな。」

食い散らかされたぶどうの皮を見たおじいちゃんは困った顔をしていました。

その日の夜にわが家では、緊急会議が開かれました。私はこの会議を「ぶどう会議」と呼ぶことにしました。まず、ハクビシンについて私が調べたことを発表します。

「ハクビシンは、ひたいから鼻先にかけて白い模様があり、雑食性でなんでも食べる。夜行性で夜に活動する。明るい場所、におい、音が嫌いみたいだよ。」

「よし、わかった。お父さんに任せろ。」

そう言うとすぐにお父さんは何かを始めました。「照明作戦」お父さんはぶどうの木の下をタイマーで電気が点くようにしました。急に明るくなることで、ハクビシンは驚いて来なくなると考えたようです。三十分おきに電気が点いてぶどうがライトで照らされています。

次の日の朝は、少し早起きしてすぐにぶどうをみにいきました。すでにお父さんとおじいちゃんがそこにいて二人とも困った顔をしています。まさかと思い近づくと、地面にはまたぶどうの皮が散らかっています。

「照明作戦は失敗だ。」

お父さんが残念そうに言います。

第二回ぶどう会議。今回はお母さんがおい作戦をしてみてはどうかと提案します。そこで、今回は蚊取り線香を一晩ぶどうの下に置いて様子を見るようになりました。照明作戦もやめずに続けます。

におい作戦失敗。次の日の朝もぶどうの皮が散らかっています。私が楽しみにしているぶどうがまた食べられている。ハクビシンは怪盗ルパンのようです。光も匂いも嫌いなはずなのに何で食べられるんだろう。

学校から帰ると、ぶどうの実の下にネットがはられています。おじいちゃんがニコニコしながら来ました。

「最終兵器、ネット作戦だ。下からどれだけジャンプしてもハクビシンは

「ぶどうを探ることは出来ないぞ。」

と得意げな顔をして、私に説明してくれました。でも、実はおばあちゃんの提案でした。その日の晩は、照明作戦、おい作戦、ネット作戦でハクビシンと勝負です。これだけやれば大丈夫とみんな安心してその日は寝ました。

ハクビシンの勝利。ここまでやつても何故かまた食べられてしましました。

「こういう時はハクビシンの気持ちになるのが一番だ。」

と名探偵おじいちゃんは地面に手を付いて辺りを見渡します。するとハクビシンのまねをしたおじいちゃんがぶどうの木に近づき、何かを見つけたようです。

「わかつたぞ。ハクビシンは木を登って上からぶどうを食べていたんだ。」木の幹には動物が木を登った爪のあとが付いていてどのように移動したかがわかりました。すぐにおじいちゃんが段ボールで木の幹に囲いをし、ハクビシンが木に登れないようにしました。

翌朝、ドヤ顔のおじいちゃんがぶどうの木の下に立っています。お父さんとお母さんはおじいちゃんのとなりで姉と私にピースをしています。それからぶどうはハクビシンに食べられていません。ひとつ、ふたつと私の口の中に吸い込まれていくぶどうちゃん。これまでおじいちゃんのぶどうはおいしくて大好きだったけど、今年のぶどうは全員でハクビシンと対決し、勝利したせいか特においしく感じます。



○豊橋市教育委員会賞

びょう気にまけない家族のきずな

花田小学校三年 北河 世良士

「おおばば、おなかのちょうどしがよくないから、けんさするつて。」お母さんが言いました。

ぼくの家族はとてもなかよしです。今年のおぼんはみんなでバーベキューをしました。全員で十八人です。みんなでお正月、ゴールデンウイーク、おぼんにあつまって、おおばばの作ったごはんを食べます。おおばばは、ぼくのひいおばあちゃんです。やさしくて、りょうり上手なおおばば。大すきなおおばばは、今いろいろなけんさをしています。大きなきかいに入るCTけんさや、一日ごはんを食べにする大ちょうどカメラのけんさ。けんさのけつかは夏休みがおわってから分かります。先生は「がんでもちがいないだろう。」

と言いました。ぼくはとてもかなしくて、心ぱいになりました。

ぼくには、お兄ちゃんがいます。ぼくたち兄弟は生まれつきめんえきのびよう氣で、何ども入いんしていました。一さいのころに「さいたい血いしょく」という大きな手じゅつをしました。お母さんやお父さんに聞くと、お母さんといっしょになごやのびよういんにいたそうです。お父さんはしごとがあるので、休みの日にはかならず会いに来てくれました。お父さんが来ると、ぼくはすぐよろこんだそうです。

お母さんはびょういんでぼくといっしょにねて、毎日コンビニのおべんとうを食べていただそうです。でも、おばあちゃんがとよはしから来てくれる日は、手作りのおかずを持って来てくれて、うれしかったと話し

ていました。

「大へんなことはたくさんあつたけど、家族のささえがあつたからがんばれただよ。かなしいけど、びよう氣で家族がバラバラになつてしまつこともある。でも、わたしたちはだんけつしてびよう気にかつことができたんだよ。」

とお母さんは言いました。

今は、おおばばのびよう氣をなおすために家族みんなでだんけつしています。お母さんはびよういんにいつしょに行き、おじいちゃんおばあちゃん、おじさんおばさんも、みんなでおおばばをささえています。ぼくも電話で

「そろばんに行つたよ。お昼は焼きそばだつたよ。」

と話します。おおばばは

「みんなが毎日電話をくれるから、かなしむひまがないよ。」
とわらいました。おおばばがわらつていてぼくは安心しました。

お母さんが

「おおばばは、せらしと話すと楽しい気持ちになれると思うよ。」

と言いました。だからぼくは、たくさん会いに行つて、会えない日は電話でたくさん話そうと思います。ぼくがおおばばを元気にしたいです。

ぼくたちがびよう気にかてたように、家ぞくみんなでだんけつすれば、おおばばもびよう気にかてるとしんじています。ぼくたち家族のきずなは、つよいんだ。だから、ぜつたいにだいじょうぶ。

わたしは、なつやすみにおかあさんといつしょにカフェやさんごっこをしました。おうちであさごほんのじゅんびをいつしょにやつてみました。

さいしょに、メニューひようをつくるところからはじめました。なんのごほんにするかをきめたり、もじをかいたりするのがたいへんでした。みんなにわかりやすいように、えもいつしょにかきました。

メニューひようができたら、わたしがひとりひとりにちゅうもんをとりました。
「ほんはなにしますか?たまごはめだまやきとすくらんぶるえつぐがあります。」

とか、ちゃんとときいてから、たのまれたちゅうもんをおかあさんにつくつともらいました。

できあがつたものをつくえにもつていきました。はじめてだつたので、ちょっととどきどきしました。でも、うれしかったことは、みんながにこにこえがおでたべてくれたことです。

わたしも、ほんもののカフェやさんになつたみたいでたのしかつたです。でも、ちょっとたいへんこともあります。みんなのちゅうもんをきいていたら、じぶんがたべたかったものが、なくなつてしましました。そのときはかなしくなりそだつたけど、いもうとがわけてくれました。

◎豊橋市教育委員会賞

なつやすみのカフェやさんごっこ

天伯小学校一年 鶴田 結希

こんどはじぶんのぶんもよけておこうとおもいました。

このたいけんをとおして、ほんもののカフェやさんは、ひとりひとりにやさしくちゅうもんをとつて、ていねいにおしごとをしているんだなとわかりました。

こんどは、もっとじょうずなおてつだいカフェをひらいて、みんなをにこにこにしたいです。

◎豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞

僕にとつての明るい家庭

南陽中学校一年 岩田 虎太朗

明るい家庭つて何だろうと、僕は考えてみました。明るい事と言えば、色々な意見があると思います。

例えば、僕だったら、学校へ行く時に母さんが大きな声で「いつてらっしゃい！」

つて言つてくれる事だつたり、学校から帰宅した時に父さんが「おかげり」

つて言つてくれる事。

自分がすごく辛い時や悲しい時に、そつと掛け寄つて自分の気持ちを優しく受け止めてくれたり、元気付けてはげましてくれたりする事などがあると思います。

協力し合うことも、明るい家にするためにはものすごく必要だなと感じます。

例えば、自分の部屋の片付けだけじゃなくて、たまにはお風呂そ�じます。

とか、ご飯の準備とか、ゴミ出しをしたりとか、できることから積極的に手伝うようにしています。

手伝いを始めた頃は、「面倒だなあ」って思うこともあつたけど、父さんと母さんが、

「ありがとう、すぐ助かったよ」

つて言つてくれると、「よし！」つて前向きな気持ちになれました。

家族皆んなでリビングに集まつて、テレビを観て心の底から大笑いしたり、休みの日には僕が好きな海を見に行つたり、美味しい料理を食べたりする時も僕の中ではとても「明るいな」と感じました。

自分の中で何か大きな壁にぶつかつて、自分一人じゃどうしようも出来なくて困つたりした時には、父さんや母さんからアドバイスをもらつたり、相談することで勇気付けられたりすることもあります。

そんな風に毎日毎日明るい時じやなくて、例えば僕の場合だと勉強が大変な時に父さんが勉強を教えてくれるんだけど、なかなか僕が理解出来なくてしかられたりしていると母さんが入つて来て両親が口げんかに発展して、少し悲しくなつたりします。

でも、それでも僕が「答えが分かつた！」つてなると両親の口げんかがおさまって、2人とも自分の事のように喜んで、ウソみたいに明るい雰囲気になつたりします。

こんなのも明るい家庭の一部なんじゃないのかな？つて僕は思います。

僕にとつての「明るい家庭」は、家族みんなが笑顔でいられることだつたり、毎日の中にある「幸せ」を感じること。そして家中が明るいと学校での失敗で落ち込んだりした時も、「家に帰れば大丈夫」つて心から思えることです。

でも、この作文を書くために、父さんと母さんと僕の3人で色々と話

しをしていくうちに、僕は少し思いました。ずっと『明るい』と、疲れちゃうんじゃないのかなと。

もちろん、元気付けてほしい時もあるけれど、ほんの少しだけれど、自分一人だけでいたい時もあります。父さんだつて母さんだつて、いつもニコニコで明るい時ばかりじゃないし、そんな時に無理矢理明るくするのはまた違うんじゃないかなと考えたりもします。でもきっと父さんも母さんも、僕が元気が無かつたり悲しい気持ちを隠していても、すぐ見抜いて明るく声を掛けてくれるのかなとも思います。

『明るい家庭作り』という題材で話してみて気が付いたのは、ただただ『明るい』だけじゃそれはそれでダメなんじゃないかという疑問でした。

時にはケンカしたり、悩んだりして、明るいだけじゃなく、他の人から見たら暗く見えてしまうような事だつたりを、乗り越えることで『本当の明るい家庭』になつていくんじゃないかと思います。

『家族みんなが笑顔でいられること。』

これから大人になつていく中で、色々な事があるけれど、僕にとっての『明るい家庭』をずっと作つていけるように、頑張つていきたいと思います。

けいやくからのハッピータイム

多米小学校五年 大原 悠雅

○豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞

たからだ。

だが、実際に始めてみると、思ったよりずっとうまくいかなかつた。走るのは得意なので、ディフェンスで相手を追いかけるのは楽しいし得意だ。しかし、ドリブルやハンドリングが苦手で、試合で思うように攻められない時がある。せっかくバスをもらつても、思うようにボールがコントロールできない。試合のビデオを見ると、自分が思うように動けていない。何度もそんなことがあると、自分には向いていないのかなど思うこともある。うまくいかないと、くやしいけれど、どうしてよいかわからず、練習日以外はボールをさわることがなくなつてしまつた。

ある日、コーチに、

「最近、ハンドリングの練習していないな。」

と、言られた。ぼくは、ドキットとした。全然上達していないので、練習していないのに気付いたのだ。コーチから、

「できないからといってにげていたら、いつまでたつても上達しない。毎日コツコツやることが大事だ。」

と言われた。ぼくはその言葉に、このままじゃダメだと思った。それから、コーチと「毎日必ずドリブルとハンドリングを練習する」という「けいやく」を結んだ。ぼくはカレンダーに練習した日はチェックをつけ、「今日はちゃんとやつた」と確にんできるようにした。しかし、一人で毎日続けるのはむずかしく、気がゆるみそうになつた。そんな時に母が、「受験も終つたし、お兄ちゃんに教えてもらつたら？」

と、言つてくれた。ぼくは四人兄弟の次男で、高校一年生の兄がいる。兄もミニバスに入つていたし、中学でもクラブチームに入つていて、何ぼくは、ミニバスに入つている。すごいスピードで走り、高くジャンプしてシユートを決める姿がかつこよく、「ぼくもやってみたい」と思つていて。ぼくは少しほづかしかつたが、

「ドリブルとハンドリング練習をいつしょにしてくれない？」

と、兄にたのんでみた。すると、兄は、

「おう、いいよ。外でやろう。」

と、すぐに答えてくれた。それから、兄がいる時はいつしょに外でドリブルやハンドリング練習をするようになつた。兄は、

「最初からうまくできる人なんていない。おれも、苦手だつたけれど、小学五年生の時に、コロナが流行して練習も試合もなくなつてしまつて、それから家で練習するようになつてから上達した。試合ができるだけ、うらやましいよ。うまくなりたいなら、続けることが大事だよ。」

と、自分の話をしてくれた。兄といつしょに練習をはじめてから、ぼくは前より少し自信がもてるようになつたし、兄に勝ちたいきもちもでてきて、毎日練習をがんばっている。すぐに上達はしないが、できることも増えて、「やればできるかもしねれない」と思えるようになった。また、兄とぼくが外で練習していると、妹二人も外に来て兄弟四人で、過ごす時間もふえて、笑い声もふえた。父もまじつていつしょに練習をすることもあるし、母にも、

「毎日練習を続けてえらいね。」
と、ほめてもらえた。

ぼくにとつて「家族」とは、それぞれのことをおうえんしあい、つらい時や大変な時にも支え合える場所で、がんばっていることをみとめてくれたり、いつしょに喜んだり、笑つたりできる場所だ。これからも練習を続けて少しづつ上達して、いつか妹にも、

「バスケットボールを教えて。」

と、言われるような兄になりたい。家族みんなが、笑顔で色々なことにチャレンジできる明るい家庭を、これからも大切にしていきたい。

◎豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞

新しい家族を通して

多米小学校三年 柴田 類一生

今年の夏、ぼくの家族は、6人家族になつた。お父さんお母さん、お姉ちゃん、弟、ぼく、そして家族でたくさん話し合つて、新しく仲間入りした、犬のハティだ。

7月14日、学校から帰つて来たらハティが家にいた。ぼくはもう、うれしくてうれしくて、早く遊びたかつたけど、ハティが新しいかんきょうになれるまでは、まだ遊べなくてケージから出せないのを聞いていたから、ハティのためにがまんした。

それから1週間たち、ハティも家になれてくれて、いつしょにボールで遊んだりした。ぼくは、夏休みに入つてハティのご飯のじゅんびや、トイレスラッシュ、ケージのそうち、ダメなことはダメとはつきり、しつけしているお母さんを見た。ハティのことの外にも家のこと、ぼくたち兄弟のこと、仕事のこと、たくさんやらなきやいけないことがあるお母さんは、大へんそうだけど、いつもえ頬だ。ハティのうんちはクサくて、はなをふさぎたくなるのに、イヤな顔しないでうんちしてすごいねと言つて、ティッシュでうんちを取つてている。お母さんに、イヤじやないのか聞いたら

「ママからしたら、ハティもるいくんと同じ、かわいいママの子どもだからいやなわけないしるいくんが赤ちゃんの時も、うんちしたオムツかえてイヤだと思ったことなんて一回もないよ。」

と言つた。



そういえば、ハティがおすわりが出来るようになったときも、トイレをおぼえたときも、家族の中でお母さんが一番ほめていた。ハティがなんだりするとダメ！とおこるのもお母さんだ。それと同じように、ぼくが何かがんばったことがあると、やっぱり1番ほめてくれるのもお母さん。わるいことをしたらしかつてくれるのもお母さん。ぼくは心が幸せな気持ちでいっぱいだった。お母さんは、きっと、ぼくが生まれた時から、こうして、大切にやさしくあいじょういっぱいに育ててくれたんだと、よく分かった気がするからだ。二年生の時に、おい立ちのじゅぎょうで、自分が生まれた時からのせい長をふりかえる時に、お母さんに、ぼくの母子手ちようを見せてもらつたことがある。お母さんが書いたぼくのせいい長記ろくには、どの文にもかならず、大好き、大事、宝物、いとおしい、という言葉がたくさん書いてあって、ぼくはお母さんにとっても大切にされて生きてきたんだと思った。

ハティという新しい家族を通して、責にんをもつてお世話することのたいへんさ、大きさを知つた。ぼくが、この家族の元にうまれてきてし

あわせだと思うように、ハティにも、ぼくたち家族のところに来てしあわせだと思ってもらえるように、お世話をしたい。そしてぼくは、これからもお母さんお父さんにかんしやの気持ちをわすれずに、6人家族になつた大すきな家族と、これからも楽しく1日1日を大切に生きていくこ

うと思う。

わたしには、すこしはなれたとこにすむ、ひいばあちゃんがいます。ひいばあちゃんは、わたしやきょうだいのたんじょうび、クリスマスやひなまつりなどのぎょうじのときになると、てがきの「てがみ」をおくつてくれます。すごくキレイなもじで、それにライнстーンアートをしてくれてキラキラしたおでがみだつたり、とびだすおでがみだつたりするときもあつたりとどくのがまいかいのたのしみです。

わたしはてがみがとどくとおかえしのてがみをかきます。そんなひいばあちゃんとのやりとりがわたしは、だいすきです。

いまは、べんりなきかいがいっぱいあるけど、てがみは、もじでかくので、きもちや、こころがつたわるつてわたしはおもいます。なかなかあえなくてさびしいけど、あえないからこそそのてがみのやりとりができることもうれしいです。ずっとこのやりとりをつづけてくれるひいばあちゃんには、かんしやのきもちでいっぱいなのと、わたしのじまんのひいばあちゃんです。

ながいやすみであえたときは、いつしょにえをかいたり、おりがみしたり、ぬりえをしたり、いろんなことをおしえてくれたり、あそんでくれます。

ひいばあちゃん、「これからもずっとてがみこうかんしようね」、これからもずっとつづけていきたいです。そして、げんきにながいきしてね。

◎豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞

わたしのひいばあちゃん

大清水小学校一年 有馬 結月

◎豊橋南口一タリーカラブ会長賞

私の大切な家族

青陵中学校一年 矢野 愛莉

私は、小さい頃から本当に周りの人達に恵まれていると思います。すてきな家族、応援してくれる親せき、優しい友達、みんな私の大切な人達です。そんな私ですが、小学校の頃までとても大きなかんちがいをしていました。

私の家は、シングルマザーなので祖父母達と、一緒に住んでいます。お母さんは仕事で忙しく、私が寝ているときに仕事から帰つて来て、「おかげり、仕事お疲れ様」や「いってらっしゃい気をつけて」も言えない生活が毎日でした。なので、習い事などの送り迎えは祖父が、一日の家事や食事作りは祖母がやつっていました。この日常が普通かと思つていました。ですが、友達の日常は、お母さんが家事と習い事の送り迎えをやり、お父さんが仕事から帰つて来て一緒に晩ご飯を食べる、そして祖父母と学校のことを話をする。そんな友達の日常を聞いた時、私の家の日常は少し違うのかなと疑問に思いました。私の心中で、ずっとモヤモヤしたまま一日過ごしました。小学生の頃の私にしては、よく考え、一つ私が忘れていたとても大切な答えを導き出すことに、成功しました。その答えとは、なんでも当たり前とかんちがいをしていました。お母さんが仕事をしていて当たり前送り迎えして当たり前、家事をしていく当たり前と私はかんちがいをしていて「ありがとう」の言葉、思いを忘れていました。その一言、たったの一言でお互いほのぼのとした気持ちになるのに。なんで言えなかつたんだろうとすぐ後悔しました。

中学生になった時、しっかりと「ありがとう」などの感謝が伝えられるようになりたいと思いました。「ご飯を作つてくれた」と、「いただきます」や「ごちそうさま」、送り迎えをしてくれて「ありがとう」一つ一つていねいに言いました。最初は、「ありがとう」と言うことがはずかしかつたです。「ありがとうございます」を言い続けて一ヶ月、前ではなかつた日常での会話が増えました。そして家族に笑顔も増えました。いつしかお母さんに「ありがとうございます」と言つてもらえるようになりました。たつた一言、大事な一言をお互いに言える、人に感謝される行動をやるし、それを見つけたら「ありがとうございます」と感謝のできる私の家族は本当に自まんです。毎日、私の為に一人で働いてくれているお母さん、家事や食事作りをやつてくれているおばあちゃん、小さい頃からお父さんのいない私にお父さんのようにふるまつてくれたおじいちゃん。私は家族に言い表せないほど「ありがとうございます」の感謝でいっぱいです。私の周りの人は本当にすてきな人達だらけです。なので私もその人達を見習つて、困つている人に対してやさしく接してあげれる人になりたいです。そして、私の思いが少しでも多くの人に共感してもらい、一人でもこのような人達が増えてほしいと心から思っています。だつて、そんな人達が増えたらきっとみんなが幸せで、笑顔の日々を過ごせると思つたからです。

家族は、私に「ありがとうございます」と感謝の大切さを学ばせてくれました。本当にすてきな家族です。読者のみなさんは、家族からどんな大切なことを学びましたか。そしてあなたにとつて家族とはどんな存在ですか。私は、この作文を書くことによつて、家族がどんなことを教えてくれたのかをあらためて知ることができました。ぜひ読者のみなさんも家族について書いてみてください。そしたら、家族の大切さ、偉大さについてきつ

と気づくことができます。

人の気持ちは、話したり聞いたりしないとわからない。ネガティブに考えると私の気持ちまでしづんでしまう。

○豊橋南口一タリークラブ会長賞

幸せの言葉

栄小学校五年 岩田 優花

「あいさつは言つたもん勝ちだよ。」と、この言葉は母の口ぐせである。どういう事なのかあまりピンときていなかつたけれど、最近になつてようやくこの言葉の意味や大きさがわかつたような気がする。あいさつは人からされるのを待つのでなく、自分からしようと心がける事が大切なだと思う。私は七十五世帯ほどが入るマンションに住んでいる。エレベーターホールや出入口で住民とすれちがう事が多く、あいさつをする事を心がけている。ほとんどの大人はあいさつをしてくれる。しかし毎回あいさつをしても返してくれないご年配の夫婦がいる。耳が聞こえにくいかと思い少し大きな声であいさつをしても目は合うがあいさつの返しがない。私はとても悲しくなる。悲しいだけではなく何か悪いことをしてしまつたのではないかと心配になる。ある時、その夫婦の小学校入学前くらいの小さな孫が遊びに来ていた。おどろいた事に孫が一緒の時はあいさつをしてくれたのだ。どういう事かわからなく家族に聞いてみた。

「どうしてかわからぬいけれど耳が聞こえにくい方ではなかつたんだね。これからも返しがなくてもあいさつはしていきたいよね。」
と母は言った。私も子供ぎらいの方ではなくて、孫に会える日が少なくてさびしく思つているからあいさつをしないのかもと思うようにした。

「私のお姉ちゃんがあいさつしているんだよ。」

と伝えた。下を向いて歩いていてあいさつをしていなかつたようだ。そのお友達は姉にあいさつをするために早歩きで正門までもどつた。私も姉もお友達もあいさつが出来てなんだかうれしくて笑顔になつた。やはりあいさつは言つたもん勝ちだ。ちょっとした事かもしれないけど幸せな気分になれる。また、私の小学校でも学年で決めて学期ごとにあいさつ運動をする。その時は学年のちがう知らないお友達にもあいさつをするのでいつもよりは少しきんちょうしたけれど、あいさつをしてくれるとしてもうれしくなる。だんだんときんちょうがなくなつて私のあいさつをする声も大きくなる。先生も生徒も笑顔で一日がスタートする。このあいさつ運動をする期間がとても好きだ。

東京に住んでいる祖父は家庭菜園で野菜を作つている。今の時期だとトウモロコシ・オクラ・赤と黄色のトマト・スイカ・ナスその他にもたくさんある。七月十三日から十五日、東京のおばんの時に二日間ラーチェーションを取つて遊びに行つた。畑で食べる真っ赤にじゅくしたトマトは最高においしくて自然と祖父にありがとうと伝えていた。十三日にご先祖様をおむかえする。おがらのけむりにのせ祖父が作つてくれたナスの牛ときゅうりの馬を持ち、ちょうどちんを手にしている私と姉が先頭になつてお部屋に入る。ご先祖様をおむかえする時には言葉でのあいさつではないけれど、心の中で「いつも見守つてくださいありがとうございます。ゆつくりしていくください」と唱える。お棚には祖父が畑で作つた色

のこい日光をたっぷり浴びた夏野菜をお供えする。和ろうそくの炎がゆらゆらと大きくゆれた時に「元気にしてる?準備ありがとう」と、まるで会話をしてくれているような気がする。私の心はとても温かくなる。そしてとても幸せな気持ちになる。私が0さいの時、よく天井のはしつこを見て笑っていたと家族が言っていた。その時はきっとご先祖様とあいさつをしていたのだろうと思った。あいさつは言つたもん勝ち。生きている人だけにたいしてではなく、ご先祖様にもつながる事なのかもと感じた。あいさつは人に言われるのを待つのではなく、自分からあいさつをする事が大切だと思った。

○豊橋南口一タリークラブ会長賞

あいさつから始まる明るい家ていづくり

玉川小学校三年 高橋 唯斗

「あーねむたーい。」

とぼくは、ふとんの中でつぶやいた。きのうの夜にお父さんと山にクリガタをつかまえにいったから少しねぶそくだ。目を半分つぶりながらビングに向かつた。すると、

「ジュー。」

という音と、いいにおいがしてきた。しようたちは、ぼくの大こう物のめだまやきをお母さんがやいていた。お母さんがぼくの方をちらつと見て、

「おはよう。」

といった。ぼくはまだねむたかったのでむしをした。するとお母さんが

とつてもとつても大きな動物のおたけびのような声で、

「おはよう。」

といつた。ぼくはびっくりして、

「おはよう。」

と返した。今日は、学校でテストがあるのでからきんちょうしていただけれどお母さんとあいさつをしたらいつのまにかきんちょうがやわらいで安心していた。あいさつってふしきだなと思つた。

夕方になりお父さんがしげとをおえ、家に帰ってきた。ぼくは、いそいでげんかんまで走つて行つて大きな声で、

「ただいま。」

といつた。お父さんはニヤッとわらいながらぼくの方を見て

「ただいまじやなくておかえりだろ。」

といつた。ぼくは、学校から帰つてきた時にお母さんに、ただいまというのでついついくせでお父さんにもただいまといつてしまふ。お父さんは、

「つかれて帰つてきても、ゆいとにただいまつていわれるとわらえてきてなんか元気であるわ。」

といつた。ぼくのあいさつで、つかれていたお父さんが元気になるなんて、ちよつぴりうれしいなと思った。それから、ただいまをきつかけに今日学校で楽しかったことを話した。あいさつをきつかけに家族とコミュニ

ケーションが取れて明るく楽しい家ていづくりにつながつてていると思う。あいさつには、いろいろな力があると思う。あいさつをされるとほつとして心があたたかくなるし、声をだしてあいさつするとなんだかぼくもいい気分になる。相手の顔を見てあいさつをすれば相手のへんかにきづくことができて、しんぱいしたり、はげますことができると思う。ぼく

くは、これからもあいさつをきつかけに家族とコミュニケーションを取つてスマイルいっぱいな家でいにしていきたい。

また、ぼくが家でいる元気なあいさつを学校や地いきの人ともしてスマイルいっぱいのあたたかいしゃかいにしていきたい。

◎豊橋南口一タリーカラブ会長賞

ぼくのたまごりょうり

沢田小学校一年 鈴木 葵士

ぼくのかぞくは、おとうさん、おかあさん、おねえちゃん、ぼくのよにんかぞくです。

いつも、あさごはんをおかあさんがつくってくれます。ぼくは、たまでてくるたまごりょうりが、だいすきです。その、おいしたまごりょうりを、ぼくもおとうさんのために、つくってみたくなりました。

あるひ、おかあさんといっしょに、はやおきをして、あさごはんのたまごりょうりをつくることにしました。おとうさんのすきなたまごりょうりは、ちようさずみです。おとうさんは、スクランブルエッグがすきといつているのをきいたことがありました。ぼくは、スクランブルエッグがどんなりょうりなのかわからなかつたので、おかあさんにきいていつしょにつくることにしました。

さいしょにたまごをわります。これがいちばんむずかしいです。たまごのからがはいらないように、じょうずにわらなければいけません。ぼくは、しゅうちゅうしてたまごをわりました。とんとん、ぱかっと、きれいにたまごをわることができました。そのたまごを、よくまぜて、バター

をいれたフライパンで、いためます。しあげにケチャップを、たっぷりかけてかんせいです。

「おとうさん、あさごはんできたよ。ぼくがつくったんだよ。」と、おとうさんをおこしました。おとうさんは、とてもよろこんでいつもよりたくさんたべていました。すると、となりにすわっていたおねえちゃんが、ぼくのスクランブルエッグをたべました。ぼくは、びっくりしました。おねえちゃんは、たまごがきらいでいつもたべません。「おいしいね。これならすこしたべれたよ。」といつていたので、うれしくなりました。またはやおきをして、あさごはんをつくりたいです。



壁新聞の部

D I Y

東田小学校5年
東田小学校2年土井
土井 茉子
七緒

2025年 8月 27日

D I Y

第2号

平和について考える 夏

戦後80年初めて広島へ



東田小学校
5年 土井 茉子
2年 どいなお

ひんてすずかん

新しいおもちゃ

37

レンジからそのままおさがしてまたおさがす

49

手で育てるおさかのいのち

88

ハケバぬきのくわうさかね

23



ありがとう

豊橋中央高校



平和への誓い
one voice

だれのウクレレ

お父さんはウクレレは
むちゅうです。毎日、し
ごとから弾。たら、どうがを見てんし。うしていま
あたしは、きゅう年のクリスマスにウクレレをもらいました。はじめは「かしてあげる」と言っていたけど、今
はお父さんのもののようになっています。

お父さんは、わたしよりピアノをがくと、うち
やましがピアノをがくと、ウクレレで

かけるよくがふえてうれしきうです。

お父さんたん生日には、お父さんのウクレレに会わせて
みんなでハーバースデーを歌います。お父さん
はわたしのすきなミセスグリーンアーブル。

お父さんは、歌が楽しめます。お父さんのウクレレに会わせて
みんなでハーバースデーを歌います。

サンブさんにウクレレをもらら。でよか。たな。

やってみよう

豊小学校2年 斗野 綾人



りんりん

幸小学校4年 鈴木 奈湖



ひまわり

汐田小学校3年 高坂 琴葉

れいわ7年 8月 17日

ひまわり

第 3 号



ダブルシュート！

豊小学校 4年
豊小学校 1年

澤野

瑛斗斗



ゆうし

吉田方小学校3年 梅木 勇志



だんご3兄弟

下条小学校6年
下条小学校3年

守田 守田 一颶 渚

2025年 8月 23日

だんご3兄弟

第4号

父、美容に自覚める

毎日鏡を見て
クルクルマッサージをする父

父が気に入らぬ香水
化粧品も裏では...
母 使用 子玉鳴

母は大阪出張へ
父はエステへ
行っている時も
お世話でした。

そんな父は家族から...

NORIKKOさん
と呼ばれています。(この前ははいわく)

母は時代へ
歩んでいます。

虚発見器は作れる

だんご3兄弟

職業について考える

下条小学校
6年 守田 一颶
3年 守田 渚

壁新聞の部

ドキドキ

東田小学校3年 西川 柚希

2025年8月31日 「ドキドキ」 第3号

トキトキ

おばあちゃん家の「ピアノ」を…

やっと会えたいところ

はじめてのお茶会

東田小学校
3年
西川 柚希

壁新聞の部

◎豊橋南ロータリークラブ会長賞

スマイル

東田小学校6年
東田小学校4年

夏妃
彩夏

2025年8月29日

ススタイル

第 1 号



へいわ

花田小学校3年 田村 優成



豊橋南ロータリークラブ60周年特別事業

明るい家庭づくり フォト&メッセージコンテスト

受賞者一覧

受賞者

・豊橋市長賞

牟呂中学校3年 山田 優大(やまだ ともひろ)さん
「普段は言えない心の声」

・豊橋市議会議長賞

松山小学校2年 中川 誠都(なかがわ まさと)さん
「みずでっぽうたいかい」

・豊橋市教育委員会賞

松山小学校5年 中川 実桜里(なかがわ みおり)さん
「夏のくつとばし」

・豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞

多米小学校4年 鈴木 蒼依(すずき あおい)さん
「さいげん旅行」

・豊橋南ロータリークラブ会長賞

旭小学校1年 矢野 陽梨(やの ひより)さん
「にっこりこはる」

・豊橋南ロータリークラブ特別賞

東陵中学校1年 朝倉 いづみ(あさくら いづみ)さん
「夢追う後ろ姿」
南部中学校1年 大橋 湊斗(おおはし みなと)さん
「太陽」



【作 者】 山田 優大

【学校名・学年】 牟呂中学校3年

【作品タイトル】 普段は言えない心の声

【メッセージ】 いつもはケンカしてばかりの妹ですが、この日は一緒に自転車のタイヤの空気を入れ、サッカーの練習に行く後ろ姿を見て「暑い中、すごいなあ」と思いました。いつもは恥ずかしくて言えないけど、心の中で「頑張ってこいよ」と思っていました。

◎豊橋市議会議長賞



【作 者】 中川 誠都

【学校名・学年】 松山小学校 2年

【作品タイトル】 みずでっぽうたいかい

【メッセージ】 わが家のなつといったら水で
っぽうたいかいです。おかあさんはしんばんで、
お父さんとおねえちゃんと、ぼくでやります。
これを一かいでもやつたらやめられなくなりま
す。わが家でいえばなつのフェスティバルです。
みなさん！やってみてください！

◎豊橋市教育委員会賞



【作 者】 中川 実桜里

【学校名・学年】 松山小学校 5年

【作品タイトル】 夏のくつとばし

【メッセージ】 夏の夕方、家族みんなでお
散歩中に見つけた公園でブランコ競争をした
よ。「どっちがいっぱいこげるかな？」とこい
でいると、私のくつがとんでった。みんな大笑
い。何度も何度もくり返し遊んだくつとばし。

◎豊橋市小中学校P T A連絡協議会長賞



【作 者】 鈴木 蒼依

【学校名・学年】 多米小学校 4年

【作品タイトル】 さいげん旅行

【メッセージ】 15年前に、パパとママが2
人でいった和歌山旅行を、夏休みに家族4人で
行ってきました。パパとママが二人で、とった
写真と同じ場所、同じポーズで4人でとったり、
同じホテルにとまりました。15年後、また4
人で来ようねと約束しました。楽しかったです。

◎豊橋南ロータリークラブ会長賞



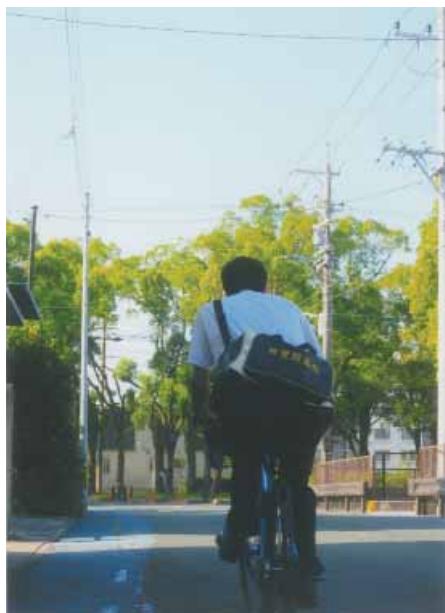
【作 者】 矢野 陽梨

【学校名・学年】 旭小学校 1年

【作品タイトル】 にっこりこはる

【メッセージ】 いもうとがかいたおはなのえがなんと！しゃくしょにかざられていて、すごくうれしかったよ。えといっしょにとったこはるのえがおは、ちょうどみみたいであかいおはなのえにぴったりだったよ。これからもいっしょにおえかきをしようね！だいすきだよ。

◎豊橋南ロータリークラブ特別賞



【作 者】 朝倉 いずみ

【学校名・学年】 東陵中学校 1年

【作品タイトル】 夢追う後ろ姿

【メッセージ】 野球道具、教科書、お弁当、大きな水筒、たくさんの荷物を持って自転車をこいでいく後ろ姿。毎日、朝早くからがんばってるね。時々、勉強を教えてくれてありがとう。いつも応援しているよ。お兄ちゃん、今日もがんばってね、いってらっしゃい！



【作 者】 大橋 湊斗

【学校名・学年】 南部中学校 1年

【作品タイトル】 太陽

【メッセージ】 生きている時にしか出来ないこと。太陽に手をすかせること。

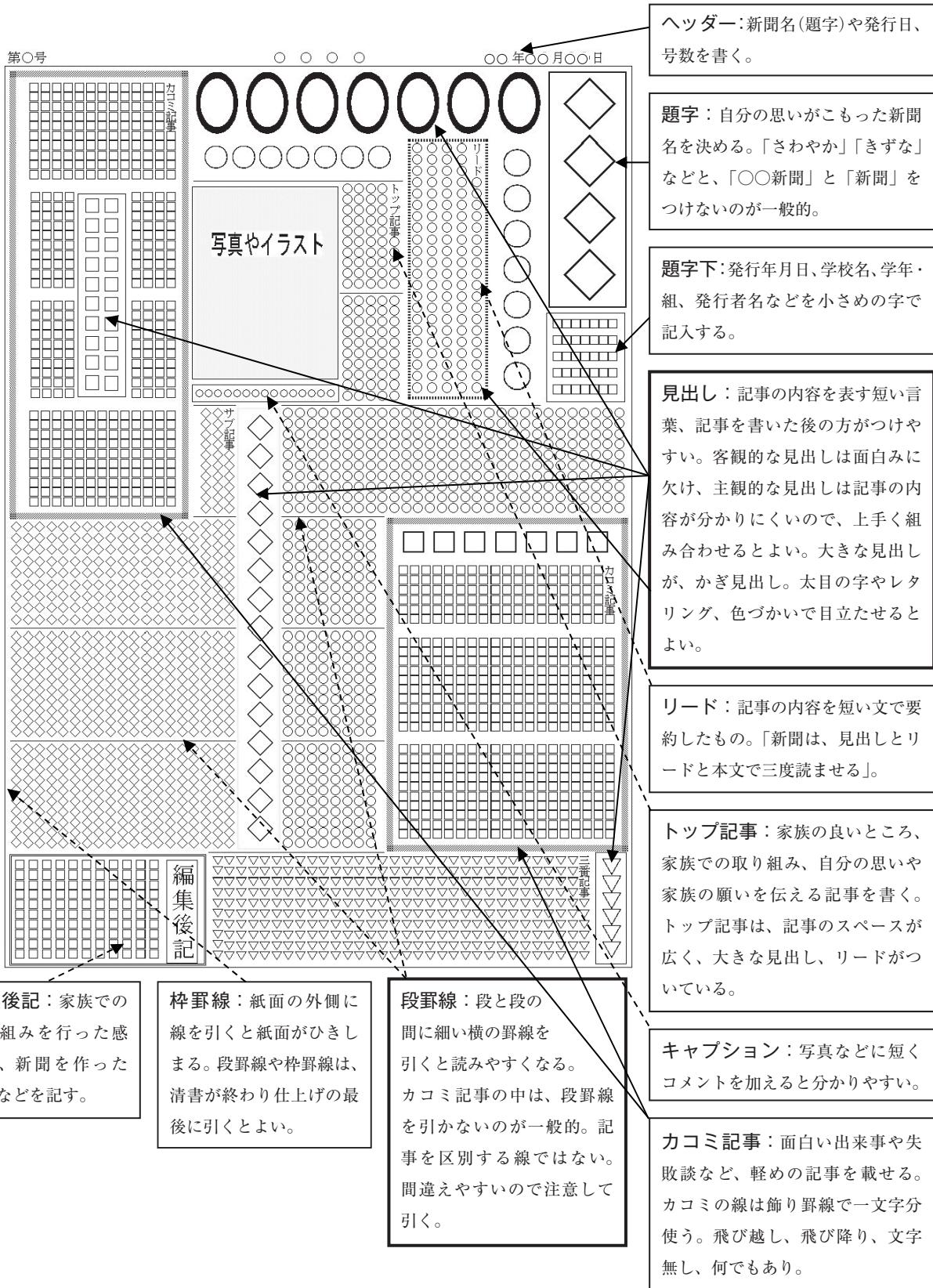
壁新聞作成のポイント



家族で楽しく新聞をつくりましょう

新聞づくりは時間がかかりますが、作品ができあがったときのうれしさは格別です。家庭で話し合いながら作れば、家族の絆も今以上に太く強くなるはずです。難しいところもありますが、とにかく楽しみながら作りましょう。

複数の記事を一枚の紙面に掲載しています。一つ一つの記事が区別できるように、紙面をレイアウト（記事や写真の割付）します。レイアウトの基本はX型、紙面右上から左下へと流れています。見本を参考にして、たくさん的人が読むことを意識して、読みやすくてきれいな作品を仕上げましょう。



第43回 明るい家庭づくり推進大会

令和8年2月1日（日）午後1時30分

豊橋市 公会堂

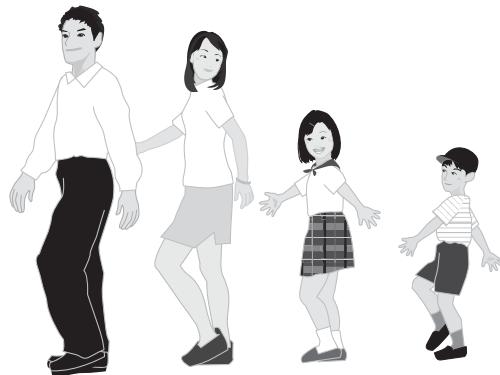
〈主 催〉

豊橋市 豊橋市教育委員会

豊橋市小中学校 PTA 連絡協議会 豊橋南ロータリークラブ

プログラム

- ◆ 開 会
- ◆ 主催者あいさつ
- ◆ 来 賓 祝 辞
- ◆ 豊橋市長賞作品発表
- ◆ 表彰式
 - ・豊橋市長賞
 - ・豊橋市議会議長賞
 - ・豊橋市教育委員会賞
 - ・豊橋市小中学校 PTA 連絡協議会長賞
 - ・豊橋南ロータリークラブ会長賞・特別賞
- ◆ 閉 会



壁新聞・フォト&メッセージの優秀作品を
豊橋市公会堂で展示します！

毎月第3日曜日は「家庭の日」

話さなくてもわかり合える関係を築くのは、簡単そうで難しいものです。
夫婦間、親子間で何でも話せる家庭づくりには、あいさつや日々の会話を
増やしていくことが大切です。
さあ！はじめましょう。あなたの家の「家庭の日」。

毎月第3日曜日は『家庭の日』

令和7年度 明るい家庭づくり優秀作品集

発 行 令和8年2月1日
編 集 豊橋市教育委員会生涯学習課
(☎ 51-2846)